特別
へ13
4309
2

新
十五

第一六八七號
三四行
五三七番
冊
二
卷

No. 94
97

優源氏袋

目録

第一　唐への祠堂金未世に移わ平家其根
おんどの沖乃霧ゝて合戦ゝ折ゝ橋柏ゝ
笛て見ゝ清水東牛たゝ[illegible]ゝ一七ゝ弱ゝ
唱ゝ年ゝ尾ゝ出ゝて流ゝ門ゝ合ゝ弘ゝ[illegible]ゝ

二之巻

N13
4309
2

昭和27年3月5日寄
岡村千寿氏贈

〈2002-162〉

第二　香に染てひとしく紙衣砕て簾帷幕の間
を洩ひこの人の女中ばかりひくに紙衣ふた
女房の寝室迄乃遠ざく仏女乃源仕里

第三　重盛の病気に奥じゆう常ゆ紙帷
新樓を揚づゆ権ゆ四ゆ大食食湯ゆ水ばび
太子の示ゆ接てとゆ大まゆ根ゆ
踊ゆ乃神の酒ゆ乃屋敷行ゆ房掛ゆ

一　唐への祠堂金未世に残ゆ平家ゆ名根
事林廣記ゆ同ゆ人ゆ拍ゆ迄ゆ食ゆ。衣服ゆ炊ゆ紙ゆ業ゆ清ゆく。
淫欲ゆ示ゆ人ゆ拍ゆ。ゆて仏衣服ゆ。ゆ名ゆ。狼雅男ゆ
ゆゆ心ゆゆゆゆゆ小初ゆ家ゆ吉ゆ拍ゆ吉ゆ姫ゆ姫ゆ。
拍ゆ平家ゆ株梁清ゆ。ゆ仏小ゆ任ゆ郷ゆ。ゆ清ゆ。
ゆ紙位ゆゆ。ゆ寶ゆ。ゆ族ゆ同ゆ。ゆ法ゆ。ゆ。
積ゆ思ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
寂ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
苦ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。

[illegible]の権威にかそれて、[illegible]
[illegible]ぬ。[illegible]
東国の大者と称んとの世わかりがたさに言葉ばかりにて
[illegible]
[illegible]の邪魔とものあらんかぬ。いくみく耳へも入らぬ。
[illegible]
[illegible]て滅亡に及ぶ。源氏に世を奪はれ、[illegible]
のこりさへも結構とにくせ六波羅の公家も。[illegible]
略が看経ものんさ[illegible]あつく平家ばかりを[illegible]
あるまじきとおもおぼして悟り。唐の高僧王山へ沒入こゝあ。洞章沒されん
として法奥を伝授ありしとかの。金とをとりよせ。おそをまくわ[illegible]へ沒され。
宗門ありしてこゝろざしかくるわへたのうけらるるぶ[illegible]

[illegible]ぶらうたつてこゝをもどれ。ぶりのすゆんと[illegible]
のつて。源氏白河に手ゆ[illegible]ねしはなさんとの[illegible]
[illegible]
[illegible]

ト云れべ。宇宙大きに張るさまの心地もすれど。日本の言葉
永く。天國の言葉となん。我は神のいうはひ。あと度されと
言あれ。言葉は法智慧速にて。こゝ。去年の公つゞ。言葉とぞうとひ。
ひろてかわくの人者とさら。地獄の種と蔵よ。言葉りゞ積悪
仏神ものゝ。ものど。人命とうさわんす。言をひるまでと。四海と海ろ。
ひろる。海ろ。（右の法華とは。くんだいぶんと。言葉と。人追善回向
あゞべしとは。せりし。蓮華ふくく。海より。日本の。重人とは。
動なり。ひろるとは。言葉は。ものゝ。夜言葉。なりまとは。言葉。
お蔵の。振れとくいろり。あそれは。咲のうりて。言葉は。めゝゞと。歌し。
蓮花。言葉は。目もうつねゝ。むりもとうさわき。姫へ。ろ。蔵れ。転中
行ものく。形て。回向。なとは。拝は。毎日。釈。言葉。十。言葉。ゞ。言葉。して
いのとのゝ。ゞ。拝ろ。母。卷。回向。ものゝ。ものゝ。言葉は。

ちゝねゞ。母。ゞ。て。逝。ちゝ。ちゝ。の。日。て。ゞ。ちゝ。姫。ゞ。ちゝ。言。ゞ。て。ゞ。ものゝ。
紙。ちゝ。ど。乳。背。て。ゞ。ゞ。ゞ。ゞ。言。ゞ。ものゝ。ものゝ。ものゝ。ものゝ。
世。ふ。て。ゞ。ゞ。ゞ。白。拍。言。言。言。言。言。言。言。言。言。言。言。言。言。言。
なゞ。言。言。言。言。言。言。言。言。言。言。言。言。言。言。言。言。言。言。言。
言

みて、死人とも、怪しみつゝ、ものゝ、こゝ人、信報を
はのくれ、ひとゝ、報、ものゝ、抑、ゝ、ねんゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、勅使と
ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、

女郎花と合点の所作。ハ組の初段。ハ組の式作法もあるべきなり。
そなたよりまんざい法師乃人を化と狐門づれ。ひとりとてのびく者共切姫君と
後さんすかりのもとゝ花といさらそれへ形成ふつと手をとそんで。こもとあるれ
ふ〜〜て。ぞんじ命ひ後無ふう西ぞ。ざるのすとのもとにを〜〜らもとゝ。
後形ふの作へ動定も同ぶ。まつこうにとるあつまれども。姫ぐハ組の門出〜〜
無とあやとゞけびうつさふ。命ハくするなかゞ〜。初面する。面ぶと出れ
ぢ〜と。ぞのかゝふんへ唱ふつと形ふ。初面ぶかふ〜いて。後ふ
とやてゝふもゝ。ふ形ふ後ふとそれゝうるばく拍子唱ふ。化非式
矢人ざるを人とふぶ〜ぬふ。ぞのぶあゞ〜も初面でさうなかゞ。ぞのあふりは
古きつゝの貴ぶ。ぞのれゆふふれかふ後あてゝ立まゞきでぞのくゞ〜て
後ふあふ〜ふ〜ふつけてぞ出ふふる。ふあなのゞゞでたくも後ふふれ。
後後ゆゆ。惜義どの時ふ近屋あゞ〜。作ふある車ハ。ふとあれへ後ふよ

たゞゞひ出〜きねふふふ後ふ姫ふとふ〜ふ世道ハ。ぞハ組ハ怪義
ハ方へ眠とゞゞり。ぞハ丁もゆんとふ〜ふ。義ゆげふり丁七唱ふつふ。ふ〜ふ
ゆハ。初面ふけ丁七唱。丁人も安後ゆく〜ふ。ぞ後ゆふ〜ふ。ぞ後ゆふ〜ふ。
ゆゆ。ふ〜ふふれの後ふふれ対面ふふふ。ふふれふ。ふれふれ。ふれふれ。ふれふれ。
ふふゆふふふく切てゆふふ。ゆふふ。ゆふふ。ゆふふ。ゆふふ。ゆふふ。ゆふふ。
ぞ後ふふふ。義ゆふ。ゆふふ。ゆふふ。ゆふふ。ゆふふ。ゆふふ。ゆふふ。
ふんくに切ふふ。ふふふ。ふふふ。ふふふ。ふふふ。ふふふ。ふふふ。
をこつふに切てふふ。姫君と車ふふ出ふふ。ふふふ。ふふふ。ふふふ。
ふもなく。ふふふ。ふふふ。ふふふ。ふふふ。ふふふ。ふふふ。ふふふ。
二ふの後ふ後ふふふふふふ。ふふふ。ふふふ。ふふふ。ふふふ。ふふふ。
（二）ふに色てひとつく。ふの下ふて。ふを幕ふ面。
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

つるを見るとうりあのかくしんしゅ絶後法の書のかたちに。
にてかくくうりあのげぶとうはうちの書さんぞうの猫のさけずのさびしさも。
まちのんぞうそ見えのりあのちづくさ。酒肉門内八くてんの城さんと。幕単
にてしたせんぞうく。拾揚故の書人あり。ちぐりのようんかりのわらのり
のしくあり。昭の書人香猫の庭とりせ。こ体さんいろいろ法のぞ猫と
りうぶりうりうんの中く法猫みてへどうんやうこ法くく
ちうしの猫とかうりうりうりぐさん。つきられ心世ぐりの宿ふ未れ幸も
うさんたてくふと犯しんなるもふさ神一人れ。表極ちう飛典さの見尼
まの陽りとて古鬼の猫をかけてかくく梯ぐりくうりさんぐ犯乃
おぐうりふうと白へ見んのきく新神とにくねふ寺の四のあうも
冥法の敬猫ぐぐくふりくねぐうう幕げうー。猫猫に青寺ぐて琴こ寺
のいうりくとりけのうけのぐんうけりいくとりう義尼。上典の洞のり

うもとのをてこ法せんふりかくらわふくとうり。えんこ。見ねのぐんの
ゆりな法えんのこいろ。猫とに法猫法ちけく。四猫のこうんの小幸れ紐と
あぐるみりひいのとつに鼻のしに猫のとちこ。后人こる解て紙猫
まこ面ありといふ書くふくこうりちこぬかこうーとふ出ーりくく。
見尼ろりりう。又猫猫のこう法ろくるぐけけぐ門ぐ寺ぐへる解ーく
らーき男ヒこもうひふ小坊こんにかるたぐこ色こげこ七人ーりのこの小寺このの
寒尼に腰をかけ。テ汚犯とこりう出ーふ看のこりけ后ってい。
ぐくてあるりてもんぐこりかくりりのの金仏像の夜金乃新こと寺て
后ちぐのーもろ男ー女ーこりふとは。ちりくのこの后ふ赤ぐで中ーりくに
こりけのあこんこんぐどふこりくこ色ーれりぐ味ー殿ーきこくの四。平寺
こんぐこ法寺まるこりこ。こ法の后代ま仕ぐ五人后法ーれまるこりに猫猫。
ゆこくこの后世法みぐ人のこりくりりとりりのにてふりりくく猫とりりのに

はけくくるんよいよいめつけつけつけ

うつくし。神ふつくんでいのあとのぞうせんぐづて芋にのこね達磨乃
羽ぐるり。たちくも恋びの恋ふなれば多くの用ざともなくづいぐらんなすみ
姿の方たもおくぬ〜ぬりつぢうんに冷ゑなくぬ織とすぐづてかてこの
ぬ〜ぶくよ知まだぐ。ぱうと泊て麻さまりぬ〜が西かぬ〜ぬ不お綾ゑ
名香のかり風にさてれ女さとき女の考あくぬ。ちら乎に老分と新人
ねだちれちわしさ。あやうき女のとうひあうすうにきくんぬ。とやくん
ちくつき風ぬいうなうあつうとつて垂でぐぐじに仏女のくれざとかと。
法文成ぐ形れてうつく。ぬとうしのぞれのあわかぬ。ざんぎりちうし
女童みの。ふ人乃ゑ人あんでおうとゆびうう揺のねをわお。ぐ友へ
つくぬ。ぬのとや〜ふありげ。くぬぐくぬ。ぬ系あり。ぐさすに家の
ちぐんとて。ぬくもちひうりのひね。ゑ色雅の乱れ系に。ぐりてはうと
ちくんまうあのちうんのちうげとあるを。ふとぬ。ぬ

人もうき花を二枝まわてんとつくんとちのふと。ゑいうをんいわ
稲ぐのうり。今ゑ毒ちうけあうも毒ずぞうりに公毒と剣すれ白
ちゑ毒にちゑりてえのあくゆうとうざれ。ゑて天の責とあう
あれに茅ふりてえれ。ぬ〜ぐ。地部をゆうつく紙くあ。ぐんすんで入
くまんぬ。ぬくにくうぬ出系。生に浮宝とちあいくんに入ぐされねと。
美屋にあちくうぐまぐめになうもあう。枝れ戸をひくき四こ入ぐ。
赤熱小稲一本と稲ぬあいくみ。折まんに義さうゑ義さんうゑ義ハ
白ぬめて一刹屋あうのあ稲ぬ。沼縄のうげにたあうび。稲すぐくハ
ぬあう。ぬくう稲ぬの神とうに。さぐ〜。郭世界へ生れ出うる西北
ちくく地ぬのゆ地小ようれぐ。ひとうの女簡ゑあすぐれをきのげ
ゑれぐ香煙美井宮のぐ〜あ〜ちまんぐひとうくいまちにぬうれぐ
ゑ稲所のいぬくう骨ちうくぬくまぬ。ぬ行ぬ。ゑ稲の方美稲ぬ

ぬがりしてのちまくあそびぬきうつ。後ていよあつく夏寝なきれ
さでごぞりまをう。ぬへ弦のはけよ之ものそ〜ねたれけこぬく言葉ふ
ゆ云ひとつ七ちや人よけいをへさろ〜まで乃ゆあさつこの乃こ能能乃
おれ体仕

こ〜恵はけそ〜あみてぞんさる泡盃中はも末れ下
ているぶんと見へていろくふのついく答絵やるるときびんあて料紙を
乙織をこ乃れみてぬ弦をて赤のゆうげと宿とせびぬやゆうふの
あるでなくまと一首見ゆらふ行しいありうぬぞふ後仲来れ
見乃ゆとあされぬ行ゆんさ中きあへめ〜こまつく次のろに之の夏尾
をふ立赤のゆとつれく神へ弦ちくく入めてぬとこゆこの在とめゆりめくるめと。
ふあ〜こ結せんに為とつけきぬ。ぬ戸の内めていろなるこんさんろころん。
屋尾とあふあけ。ゆ〜屋口やとぬ。兵部の仕あれめるいゆ也れ始とぬめる。

三 重盛の高ふよ恵じゆう之後

人へうろれ仕ぎと中〜と〜て今後とまうけぬそ〜ゆくたのうと
こんひろあて人こうひく道ゆれど。れあとゆ和伝紙拾くあ乃紙県ふ
ゆこれとあれど見へ之こふ也ぬ乃ぬ〜ぬ。
ぬゆこふかあるくこう中ゆの有尾とわるくこんいろのきくこう中は。
赤葉のゆ口ぎんゆきんなく。ぬ葉みの仕ゆの油も仕をびゆこへ髪結ゆうゆ也
みてゆ和ゆこうぎんと拾ゆ。ぬ葉ても結ふ乃二ふとふれど今和とゆけ
こうぬ今ふあてゆこの乃ゆ〜ゆ〜ゆ〜

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ぎり。へだてさいふびんも浦さう屋の奥さまをけーさん。
はるかこの体にて御尾張の郡司殿の御子の逐電
さと五とさうぎさうあ後生よつて御尾張ようと
あへどもきさうの系のあるにあらず。ぞまく方法作法さ行。
商主公の相当金三千両給ふ。
四拾余あり。あよかんどうぶ沖ゆく破船せーとにうつり。主人太郎
右の金をとりて千ぞうげいさいぐるひの者ひとりのこらず白状
いたしたるこのみ四つつ切腹仰付られ。
金銭ぐるみのみよ浦さう芸者なれば月代ての祝ごしゆ。
配羅と四人あり。追放いたしとの事なりとぞ。
浦ぶ人き河ものなくあやまり入。
なさけのくも太ふりぎとり若ひきわぎ小神とやぎ。

ちつき本船の第りのかぶ名う人追放人の仕法なれどとり行を相用
なくぜーてくさいふーへぜんなりろるさ名なりやのとも
西和第力る人の西るの寄所して。追放ぜられまつとおさん
第るるる人ありて相ゆと弟れへ。
ひとーく仕とちーくみ名とうけりゆくぜーのぜぐ
うごくさんのあり。あれそ人なるぞとおーとろそて
ありくに追つこ河とくまぶ名仕とふりかうりあひだぐふり
めされく河もおぞうきぜ第力ゆとまぐあぜ仕のすとねぜーへ
ぞんくに仕ぶ名ぜーに第ゆ人ゆく。今歳の方ゆーとて海ねる
なぐぐぜ。武二名よ達てのひ猛力智雪の成。温泉海城の
西名とおぐるものひくくぜ仕へのあ第。未代までの四名の和ちらく。
ひ成お。この沖ゆて西風ぐげーさわと河ひ和成とかくーひ

御宮合　　　

一冬